

会 議 記 録	
発 言 者	発 言 要 旨
総 務 課 長	<p>1. 開会</p> <p>ただいまからおいらせ町総合教育会議を始めます。</p> <p>修礼を行います。ご起立ください。</p> <p>(礼)「よろしく申し上げます。」</p> <p>ご着席ください。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>次第に沿って進めてまいります。</p> <p>はじめに町長からご挨拶をお願いします。</p>
町 長	<p>2. 町長あいさつ</p> <p>いよいよ年の瀬も迫って、今年も残すところあと12日となりました。教育の問題については、おいらせ町からは、いじめ云々という深刻な状況は出なかったということで安堵しているところですが、しかし、水面下でどうなっているかというのは誰もわからない、今後もアンテナを張りながら、万が一の無いように、子ども達を守っていただきたいと思います。</p> <p>そして、もう一つ、いよいよ各学校のトイレの改修、洋式トイレ化をやることになっておりまして、順調に進んでおります。計画的に各学校を洋式化するということになると思います。</p>

ので、皆さんも情報を共有して、町民から聞かれた時には来年度から着工しますということで情報を提供してほしいと思っております。

それからもうひとつ、ALTを来年度から1人増やすということになっておりまして、教育カリキュラムなど、どんどん時代が変われば様々なことが変わる。ようやく英語教育を小さい子どもの頃からやるような感じになってきました。世界に通用するよう、話せないと何もならない、聞けないと何もならない、そういったことで改革がなされ、改善されております。そういったことも踏まえて教育の方もどんどん変わってくると思います。どうぞ皆様方プロフェッショナルにおかれましては、今後とも当町の教育をよろしくお願いいたします。以上です。

3. 議事

1. 今後の英語教育について

総務課長

それでは、議事に入ります。

「今後の英語教育について」、学務課から説明をお願いします。

附田室長及び奥寺主事

資料説明

総務課長

それでは、皆様からご意見・ご質問はございませんでしょうか。

<p>教 育 長</p>	<p>室長の説明資料の5ページの中で、英語教育推進委員会で話し合った検討事項の資料への掲載はどういう意味合いか。今後必要になるので、予算をつけてくださいということですか。</p>
<p>松 山 補 佐</p>	<p>実は、平成30年度の当初予算で既にこれらを要求しております。これは標準的に必要だなというもので、あとは各校で必要なものを予算内で購入してもらおうことになるのですが、今回、全部の学校においてこういったものが小学校で必要になるだろうということで、この資料に掲載しているということになります。</p>
<p>附 田 室 長</p>	<p>キ「英語用掛け軸」とク「英語用DVD」を私の判断で削除しております。英語教育推進委員会の話し合いの中では、キとクも出ましたが、まずは、ア「フラッシュカード」からカ「英語推進委員の研修会参加費」まではとりあえず必要だろう。キとクについては、これからやっていきながら必要とあれば予算要求していきたいなと思う項目です。</p>
<p>岡 本 補 佐</p>	<p>ア「フラッシュカード」とはどのような教材ですか。</p>
<p>附 田 室 長</p>	<p>単語やイラストなどが書かれており、短時間で次々とめくって見せることで反応速度や知</p>

	<p>識量の増加を目指すものです。</p>
総務課長	<p>キ「英語用掛け軸」とは何ですか。</p>
附田室長	<p>色々種類があるようですが、大きな絵が書かれてあったりするもので、英語で説明させたりするのに使うようなものです。</p>
総務課長	<p>その他、委員の皆さんからご質問やご意見はありませんでしょうか。</p>
加藤委員	<p>今回1年間、英語教育推進委員会を実際に稼働して、これからの指導要録の改訂に向けて動き出したと、大変良いことだと思っております。時機に適っているなと感じております。それで、メンバー等のいろいろな資料を見ますと、先ほど、室長から説明のあった、小学校3・4年、5・6年の対応について、教員同士の資質の向上を図ると、それから、スムーズに当町においても、英語教育を推進していきたいということだろうと思います。ただ、昨今、当町だけでなく、全国の様子を新聞等で拝見しますと、なかなか今の先生方で、特に年配の先生方の英語力を、獲得するのが難しいという意見も出ております。そういった中で、この推進委員会の目標というのですか、資質の向上を図ることにあるかと思うのですが、小学校で32年度、中学校で33年度、中学校は置いておき</p>

附 田 室 長	<p>まして、小学校の方の推進委員会を推進力に各学校を動かしていくというイメージなのか、そのところをもう少し詳しく室長の方から説明していただければと思います。</p> <p>まずは、英語教育推進委員会のメンバーになっている方たちは、英語教育を推進する、各校の中心的人物ということで動いてもらっております。来年度、予定しております研究授業を2回、当町の小学校の先生方すべてを巻き込んでいきたいなと思っております。ここから発信していこうというものでございます。</p>
加 藤 委 員	<p>立ち上げてテーマとしてはそういうことだろうと思います。立ち上げるのは良いのですが、それを強力に、いかに子どもたちに定着させていくか、それが一番問題かと思しますので、そのところを是非強力に活動を展開していただいて、町長も今回いらっしゃるので、予算はどんどん付けていただいてですね、やっていかないと。ALTの配分とか、いろんな課題もありますけど、いずれにしても、当町の子どもたちが、今の英語教育というのは、大体受験か、ある程度のコミュニケーションを取れるか、そしてその子の意思優先というのですか、本当に身になっているかというのは、今まであまり無かったと思うのですよ。それを少しでも好きになる動機づけとか、そういうふうなのに</p>

	<p>是非ですね、活性化していく一つの委員会として設定していただければ、非常に有意義かと思えます。ですから、各委員の方々も皆さん意見があると思えますから、こういったものはやはり議論を深めていかなければダメだと思えますので、私の方からとりあえず話しをさせていただきました。</p>
総務課長	<p>非常に貴重なご意見だと思います。</p>
教育長	<p>今ですね、国の予算の中で、最近ですが、英語の専科教員、それを何千人だか上げているのですよね。その英語の専科教員がどの程度、東北・青森県の方に配置されるかはわからない状況ですけれども、いくらかは入れてくれるのかな、予算が通ればの話ですが、そういうのも今、国では動いているようなのです。結局、小学校では、英語の免許を持っていない人が英語の授業をしなければならないという状況ですので、ここが一番大きな問題というか先生方が苦勞するところなのですよね。そのために、ALTとか英語の教材とかこういうものを教育委員会の方から揃えてあげないとなかなか苦勞するだろうというところです。人が配置されれば良いのですが、まだ不透明な状況です。国では予算として上げているのですが、その後どうなるか分からない状況です。</p>

西 舘 委 員

意見ではないですが、昔現場にいた時に、一番困っていたことが、先ほど世話係という話がありましたけど、いわゆる学担とALTが協力し合って授業する形ですよ。中心になるのはALTじゃないですよ、小学校の場合は。そうするとコミュニケーションが取りづらかったというのが大変私の中で残ってしまっていて、なんか大変そうだなと思って、間にも入ることも出来ずに、いわゆる授業の中身について話し合いたいだけけれども、コミュニケーションを取る術が無い、技術的に言葉が通じ合わないということがたくさんあったのですよ。ですから、その辺のところは、世話人だけでなく、担当者2人が力を合わせることもっと有効に緻密に計画通りの授業を展開できるような、間に入れてくれる人に英語力がある人がいれば、とても助かったと思うのですよね。そういう意味でも、臨時職員をつければ世話ができるっていうのだけど、それだけじゃなくて、そういうところももうちょっと考えてもらえればたぶん小学校も先生方は助かるのではないかなと思うのですけど。出来ないことは重々わかっているのですが希望として出しておかないと、ということでご意見させていただきました。

教 育 長

それに関して、アイデアの一つとして、いわゆる中に入る人が英語も話せる、日本語も話せるという状況であれば一番良いわけですよ

	<p>ね。実は今、当教育委員会に、ハリーとラリーというALTがいて、どちらも日本語は話せます。もちろん英語も話すのですが、来年5年目になります。最長5年間までALTでいるのですが、その後、仕事があればやっても良いような話をしてくれています。例えば、今そういう人材がいれば、そういう形で残すということも出来るのではないかなという気がするのですが。もちろん人件費が掛かりますが、こういった人材がいれば都合が良いのかなという気がしました。ただの臨時採用の人よりは、ずっと連絡、調整なりがスムーズに出来ると思います。ALTとしては期限が切れてしまいますので、世話役として。</p>
<p>総務課長</p>	<p>そうすると当然、国からの予算も無しになってしまうということですね。町独自でという話ですね。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>そこで町長さんの出番。</p>
<p>西舘委員</p>	<p>本当に一番詰めた時に、授業を組み立てていく時に、担任とALTとの意見の交流というのは本当に大事です。ただ機械的に数字で揃えたから大丈夫というものではない。効果を上げるために是非ともご配慮お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>今のALTは2人とも自分で学校の先生方</p>

とコンタクトを取れますのでやっていますけれども、全員が全員、A L Tが日本語を話すかというところではない。話せない方がむしろ多いという感じ。だから、A L Tが増えてくれば増えてくるほど、日本語を話せないA L Tも増えてくるのではないかと考えられます。

加藤委員

今、教育長の話にもありましたが、要するに5年間以降は予算が付かないのでやめてもらうしかない。そうなるとその後、当町にとってももったいない。もしそういう人がいるのであれば、J E Tとかいろんなもの、国の財政を使わなくても、国の予算を使わない独自のもので、なんとか2人のうちの1人でも、橋渡し役が、教育長や室長、西館委員がお話ししたやり方で、そういった人材を当町としても確保していく道を見つけていった方が良いのではないかと思います。単に臨時職員を配置するよりは、より深いコミュニケーションとか色々なアドバイスとか、様々探っていけば探っていくほど改善する余地はあろうかと思うのですよ。その方がお互いにも、今までも全部で評価するのではなくて、より良いプログラムを作っていくという観点に立てばですね、逆に最終的な人材だと思うのですよ。ただ、その方々を2年とか3年とかの契約を町独自でやるというのは予算的にはかなり厳しいのは分かっていますので、1年目とか2年目とかで、

	<p>そこら辺を含めてそういう人材を当町に引っ張っておくというか、そういった施策も必要じゃないかという教育委員会の方針かと思えますので、町当局としても是非そのところをご考慮いただければ、ご検討いただければと思います。</p>
小 向 委 員	<p>町にとっても、そういう方というのは価値があるのではないかなと思います。使い手があるというか、A L Tの方で募集されたという中で来るよりは、そういう方の方が本当の意味で生きた英語が使われるというのは、町にとってすごく有り難いことだなと思うので、そういう機会を是非作っていけるような町にしていただければと思います。</p>
総 務 課 長	<p>先ほど、附田室長が資料で説明していた、A L Tが4人になれば、どうしてもサポートする人が必要になるよ、ということのを他の市町村から伺っているという内容と繋がるようなお話なのかなと思いますが。</p>
附 田 室 長	<p>はい。なおかつ、今まで子どもたちに関わっていたハリーカラリーであれば、言うこと無いのではないのでしょうか。最高だと思います。とにかく他市町村に取られないようにしなければと私は思っております。はっきり言って彼らは、他市町村からはこれだけ良い人材だという</p>

総務課長	<p>ことが分かっていきますから、他から声が掛かると思います。</p> <p>いろいろとご意見いただきました。これで「議事1」については、質問等が出尽くしたということでしょうか。</p> <p>町長の所感についてお願いします。</p>
町長	<p>ハリーさんとラリーさんは日本語を話せるということで、やりやすさを感じている。結論から言いますと、予算との相談でしょうね。その中で、賃金分は交付税として歳入に入っているようですが、継続できれば一番良い。町長としては、予算的に許せば、本人が良ければ継続した方が良いと思う。知っているし、やり取りも出来るし、効果抜群でしょう。日本語を話せない人よりは、ALTに教えなければいけないとなると時間ばかり取られて終わってしまうからね。優秀だということですから、そこら辺についても、今の皆さんのお話を伺って、その通りだと私も思っておりますので、どうすれば良いのか財政と相談してみて、財政が許せばやってみたいものだなと感じています。</p>
教育長	<p>鮭まつりでも大活躍していますので。</p>
総務課長	<p>それではこれで「今後の英語教育について」を終了いたします。</p>

	<p>2. 特別支援教育支援員について</p>
総務課長	<p>続きまして、「特別支援教育支援員について」、学務課から説明をお願いします。</p>
種市主幹	<p>資料説明</p>
総務課長	<p>ただいま説明がありましたが、ご意見、ご質問はありませんか。</p>
西舘委員	<p>資料3ページ「7 上十三市町村の特別支援教育支援員配置状況」の表中で、おいらせ町が0.9%ということですが、何の割合でしょうか。</p>
種市主幹	<p>児童生徒数に対する支援員の割合で、「支援員配置人数」を「全児童生徒数」で割った数値です。</p>
小向委員	<p>特別支援学校がありますけれども、特別支援学校の児童生徒数は増えているのか、減っているのか。</p>
種市主幹	<p>特別支援学校に在籍する児童生徒数についてですが、小学校については、平成17年は540人だったが、平成27年は477人ということで緩やかに減少している状況です。中学校については、平成17年が338人、平成27</p>

	<p>年が 4 1 1 人ということで徐々に増加している傾向にあります。高校では、平成 2 0 年が 6 3 5 人だったが、平成 2 7 年が 8 0 4 人ということで徐々に増えているという状況です。</p>
小 向 委 員	<p>年齢で様々だという事ですね。学校での対応の仕方、保護者等との話し合いについてお尋ねします。</p>
教 育 長	<p>教育支援委員会の場で、小学校に入学する際に、いろいろと検査をして、例えば、その程度に応じて、支援学校が良いですよとか、支援学級、通常学級という判定を下すわけです。その判定に基づいて保護者に説明をするわけです。ただ、最終的にここに行くという意思決定は保護者に任せられているわけです。ここに行きなさいということではないです。例えば、支援学校が適当ですと言われても、「通常学級に入れてやっていきたい」という方も中にはいるわけです。そうすると、通常学級の中で本来、支援学級でやらなければならないことを、障がいがある重い人もいることになるのです。そういう子どもたちがいたら、やはり支援員という人たちが必要になってくるわけです。そういうわけで、学級担任だけではどうにもならないということで支援員が必要になってやっているわけですけれども。ですから、あくまでも最終的に保護者の判断で、支援学校に行くか、通常学校の</p>

	<p>中の支援学級とか知的学級とか情緒学級に行くかが決まってしまうということになります。保護者も傾向としては、小学校のうちには、通常学級に行かせたいということが多いです。ところが、それが進んでいき、中学校入学段階でかなりの差が出てくることになると、支援学級なり支援学校への希望が増えてきます。こういったことは進級していくにしたがって増えてくる傾向にあります。最終的には高校となると、将来的に就職ということになりますが、就職を考えると養護学校高等科の方が就職率は良いわけなので、その個人が自立できるということになります。高校でも普通学級ではどうにもならないということがありますし、どんどんそういう子が増えてきていると思います。</p>
小 向 委 員	<p>そうすると、義務教育の間は、そういう傾向が多いということは、支援員の人数が増えるということになるのですね。</p>
教 育 長	<p>小学校の中では、そういう子たちが通常学級にいる割合が多いということです。</p>
小 向 委 員	<p>わかりました、ありがとうございます。</p>
総 務 課 長	<p>その他、委員の皆さんからご質問等ございませんでしょうか。</p>

加藤委員

小向委員のお話に関連するのですが、資料3ページの6「おいらせ町の特別支援教育支援員の配置状況」について、当初は一桁で出発していた支援員が、平成23年度に10名に飛躍的に増えているようですが、やはりそれだけ各学校段階において支援を必要とする児童生徒数が増加している。より詳しく教育支援委員会で審査して、吸い上げているものだろうと思います。そういうことで、当初に比べると現在20人になっているのですが、今回の学校要望は29名ということで、児童生徒数は減っているのですが、特別支援教育支援員については増えている。それだけそういった兆候を持つ子がより顕在化してきているという実情かと思えます。それについては、先ほど、種市さんから当町の場合は、六ヶ所に比べて0.9%ですから少ない数字にはなっていますが、要するに、万遍なく子どもに手が回っているのではなくて、支援員へのご負担が多いという実情もあるかと思えます。ですから、今回の総合教育会議で教育委員会として町当局にお願いしたいのは、現状を把握した上で、少しでも年度の中で支援員の人数を増やしていただけないかということに尽きると思います。それで、学校現場の教員の負担をですね、ただここで支援員の人数が増えたのは町の単独予算ですから、町の負担になるかとは思いますが、ですから、大変な部分はあると思うのですが、先生方も保護者も安心する、

	<p>ひいては学校の安定、そういう意味合いを考えると完璧にすることは出来ないにしても、ある程度、特別支援員の方々が動きやすい状況を作ることが教育委員会の務めであるし、町当局としても是非ご支援をお願いしたいと思っております。小向委員の発言に絡んでのお願いですけれども、こういう会議でなければ町当局に直言できませんので、あえて申し上げさせていただきました。よろしくお願いいたします。</p>
<p>松 山 補 佐</p>	<p>資料3 ページ「7 上十三市町村の特別支援教育支援員配置状況」の表を見ますと、東北町の支援員が30人ということで町村の中では突出していると思ひまして、児童生徒数でいくと当町の約半数という中で、それくらいの支援員数を抱えている。決して当町の支援員数は多くないなと思っております。来年度の予算要求については、20人でそのままの人数で要求しているかと思ひます。配置についてはこれからですけれども、今後はやはり特別に支援を必要とする子どもが増えているという状況なので、再来年度以降、将来的には徐々に増やしていく必要があるなと感じております。その辺を踏まえて予算要求を毎年増やしていく方向で考えておりますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>国では、「インクルーシブ教育」といって、通常学級の中で特別支援を必要とする子ども</p>

たちに教育をしましよという考え方を出しています。支援が必要な子には支援員をつけるということで、地方交付税を付けているという形を取っています。ですので、人件費については丸々、町の持ち出しだけではないのではないかなとは思いますが。国では交付税措置を行っていると言っております。

加藤委員

今の教育長の発言に絡んでいくと、首都圏とか人口の多いところでは先進的な考え方を取り入れている学校もありますが、全国的に普及しているかと言われればまだまだです。普及していないからといって手を挙げないのではなく、交付税として予算措置がされるのであれば是非ご配慮いただいで対応をお願いしたい。教育の多様化の中で様々な考え方があるということをご理解いただきたい。ただ、それに対して、まちひとしごとに対しても、地方大学ほど国では補助をつけるとか言われていますが、様々な意見が出されているので、どのようになるのかを見ていきながらやっていただければと思います。教育長の補足になります。

総務課長

先ほど松山補佐の話にもありましたが、来年の臨時職員の要望について全課から聞き取りした際に、支援員の要望もありましたが、今回詳しく説明や意見を聞いて実情を改めて理解しました。インクルーシブ教育というものも初

	<p>めて聞きましたが、支援が必要な子にも差別なく一緒に勉強しましょう、一つの個性として尊重しましょうという考えで取り組むということなのだろうなと思いました。</p>
西 舘 委 員	<p>学校に立ち寄ると、ご用のある先生がいない、事務の方しかいないということが多いです。なぜかなと思って教室を見てみると、個別指導をしている様子を目にする。校長・教頭・教務主任も各学校においてそんなことが多くあります。ですから、支援員が足りないのだろうな、支援対応が大変なのだろうなと感じております。</p>
総 務 課 長	<p>委員の皆さんからいろいろなご意見がありましたけれども、これについて町長からコメントをお願いします。</p>
町 長	<p>傾向については聞いていて理解できますけれども、昔と比べて支援を必要とする子どもの人数は多いのでしょうか。</p>
西 舘 委 員	<p>昔はすべて普通学級にいました。知的障害の子どもが特別学級にいて、そこに入らない子ども達は普通学級に普通にいました。普通の40人学級の中に、急に飛び出していなくなる子もいました。その子を追いかけているとその他の子ども達は自習になっていました。担任1人で</p>

町 長	<p>対応していました。</p> <p>私たちが子どもの時代は、支援員というのを聞いたことがなかった。昔は担任の先生が良くやっていたということですか。</p>
教 育 長	<p>手を掛けられなかったのです。</p>
町 長	<p>支援員の対応について、現場を把握し、財源的対応をしたい。支援員は1週間にどれくらい出勤しているのでしょうか。</p>
種 市 主 幹	<p>年間の勤務時間数を1,050時間と決めておりまして、1日に換算すると7時間以内、週にして29時間以内という中でやり繰りしています。</p>
町 長	<p>授業が始まれば教室にいるということですね。町としては、教育環境の充実ということで、時代の変化に合わせてながらどの程度まで検討しなければいけないのか真剣に議論しなければいけないと思います。適正配置をしなければならないという気持ちはあります。関係課と協議、意見の摺合せをしながら、財政的な対応をしていきたいと思います。現状把握をしっかりと行い、どうしてもこの学校にはどれくらい支援を必要とする子がいて、支援員を何人配置するかという現場を尊重していきながら、総合的</p>

<p>教 育 長</p>	<p>に判断していきたいと思います。</p> <p>今までの話題は知的や情緒という話題でしたが、突然ですけれども、肢体不自由の子どもが入学する場合があります。そうした時にも、その子のために支援員を1人配置しなければいけないという状況です。そういった場合に入学を拒否するという事は出来ません。そういう子が入学する際には、なんとか優先的に配置していただかないと学校も大変だということになります。</p>
<p>総務課長</p>	<p>教育委員会でも町長部局の方へなるべく早く情報提供いただきたいと思います。今後も情報共有は常に行っていきましょう。</p>
<p>総務課長</p>	<p>それでは、これで「特別支援教育支援員について」を終了します。</p> <p>以上で議事を終了とします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>4. 意見交換</p>
<p>総務課長</p>	<p>これより意見交換に入ります。議事以外のご意見のある方は、発言をお願いします。</p>
<p>松林委員</p>	<p>支援員について話がありましたが、特別な支援を必要とする子が増えるとクラスも増えることになります。そうすると教室が足りないと</p>

加藤委員	<p>いう現象も起きてくると思いますので、その点についての対応もお願いします。</p> <p>学校によっては教室が足りない、環境が良くないという状況になっています。現在、かなり先生方は苦勞しながら個別指導をしている。こういった現状も理解してもらいたい。</p>
総務課長	<p>教育委員会でもこういった話は把握していますか。</p>
学務課長	<p>はい。常に現状把握に努めております。児童生徒の入学・卒業、転入・転出で人数を把握しています。突然、教室数を増やすということは出来ませんから、何年も前から人数と教室数の推移を把握してきております。</p>
総務課長	<p>その他、ご意見はありますでしょうか。無いようですので、これにて意見交換を終了とします。</p> <p>本日は委員の皆様には、ご多用の中お集まりいただき、また、貴重なご意見を多数賜りました。厚く御礼申し上げます。</p> <p>これを持ちまして、おいらせ町総合教育会議を終了します。</p> <p>修礼を行います。ご起立ください。</p> <p>(礼)「ありがとうございました。」</p>